



## こどもとおとなのための ピリリと風刺の効いたファンタジー



北村有起哉



松尾 諭



森下能幸



【演出】小山ゆうな



【芸術監督】小川絵梨子



林田航平



あめくみちこ



花王おさむ

【6月27日（土）一般発売 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

©新国立劇場 制作部演劇 広報担当 関 美希奈

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

E-mail: seki\_m0616@nntt.jac.go.jp

©新国立劇場 制作部演劇 制作担当 伊澤雅子

TEL: 03-5352-5736



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

## 作品について

### こどもも大人も楽しめる ピリリと風刺の効いたファンタジー

作者のミヒャエル・エンデは、『モモ』や『はてしない物語』などを執筆した、世界でもっとも有名な児童文学作家のひとり。本作は童話『魔法のカクテル』をエンデ自らが戯曲化した人気作品です。新国立劇場初登場の小山ゆうなが演出、日本初演でお贈りします。

## あらすじ

大晦日の夜、枢密魔法顧問官のイルヴィッツァーの心はざわついていた。悪魔と契約したノルマを履行できていなかったからだ。大晦日が過ぎるまでに契約を果たせなければ、イルヴィッツァー自身が差し押さえになってしまう。

そこへ、魔女ティラニアは、なんでも願いがかなう魔法のカクテルを作るレシピが書かれた巻物を手に入れるために、イルヴィッツァーを訪問する。二人のやりとりを盗み聞きした猫のマウリツィオとカラスのヤコブは何とか彼らの野望を阻止しようとするのだが.....。

## 翻訳 高橋文子からのメッセージ

ドイツの作家ミヒャエル・エンデ（1929-1995）は、『モモ』や『はてしない物語』といった世界的なベストセラーでよく知られています。1989年に書かれた小説『魔法のカクテル』（川西実沙訳、岩波文庫）は、エンデが完成させた最後の長編で、翌年にはその演劇版が初演されました。

物語は大晦日、ドイツでは「聖シルヴェスターの日」の夕方から年越しの鐘が鳴る真夜中までの出来事です。自然を破壊しようとする魔法使いと魔女に、カラスと猫の凸凹コンビが立ち向かいます。物語が書かれた1989年は、温室効果ガスによる環境破壊を防ごうと、世界が動き始めた時代でした。オゾンホールやフロンガスといった言葉が、人びとの意識を地球全体の環境に向き合うことへとつながり始めていました。もうその頃から、私たちは自然と私たちとを救う崖っぷちの「大晦日」にはいっていたということかもしれません。動物たちの奮闘と友情によって、物語の世界は変わっていきます。魔法の力はない私たちですが、世界を動かす願いの力の方向は変えられるかもしれない。「全てのカクテルのなかのカクテルよ、我がのぞみを叶えたまえ！」

## 演出 小山ゆうなからのメッセージ

ミヒャエル・エンデが作品を通して投げかけた人間による環境破壊、大人達による子供達の自由の搾取等は残念ながら今も現代的なテーマで、日本の現状とも符合します。

芸術監督の小川絵梨子さんが最初に作品案の中で出されたのがミヒャエル・エンデの名前でした。子供時代に小川さんご自身が読まれてただ楽しいだけではないちょっと怖さも残る印象的な作家として大切に思われていらっしゃいました。

『願いがかなうぐつぐつカクテル』には、「虐げられた人々」しか出てきません。

悪い魔法使いにも大臣である上司がいて仕事を成さなければ存在を消される恐怖の元におかれています。猫もカラスも華やかさとは縁遠い存在です。

又、子供もめいっぱい楽しめる作品でありながら結末も残酷なまでにリアルという稀有な作品です。子供時代の観劇は人生の中で何回も思い出す宝物となるものだと思いますので、上質な深い作品をお届けできるよう最大限の工夫を重ねたいと思っています。

万能で素敵なキャストの皆様と作品づくりができるので魔法的な楽しい時間をお客様と共有できると信じております。

## スタッフプロフィール

### 高橋文子 (TAKAHASHI Fumiko)

翻訳家、上智大学非常勤講師。戯曲の翻訳に、ミリサヴリエヴィッチ『揺れる』、ドルスト『私、フォイアーバッハ』、チョッケ『文学盲者たち』、ショーパー『Hikikomori』、アハターンブッシュ『長靴と靴下』などがある。その他の翻訳として、『クレーの日記』、シュテーパー『サバンナを生きるシマウマのこども』、ビューヒナー『レンツ』、ヘルンドルフ『砂』、マルク『戦場からの手紙』など。

### 小山ゆうな (KOYAMA Yuna)

ドイツ・ハンブルク生まれ。早稲田大学第一文学部演劇専修卒業。劇団NLT演出部を経て現在はフリー。アーティストユニット「雷ストレンジャーズ」主宰。最近の演出作に（以下、雷ストレンジャーズ作品イプセン『リーグ・オブ・ユース〜青年同盟』、ストリンドベリ『父』、シュニッツラー『緑のオウム亭 - 1 幕のグロテスク劇 -』、イプセン『フォルケフィエンダー 人民の敵 -』等）。2017年世田谷パブリックシアター主催公演『チック』にて、翻訳・演出を手がけ、同年小田島雄志・翻訳戯曲賞、2018年読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。

## 出演者プロフィール

### 北村有起哉 (KITAMURA Yukiya)

1974年生まれ。東京出身。1998年に舞台『春のめざめ』と映画『カンゾー先生』に出演しデビュー。ジャンルを問わない表現力で幅広く活動し、その独特の存在感で注目を集める。近年の作品は、舞台『風の又三郎』『大人のけんかが終わるまで』『豚小屋』、映画『新聞記者』『町田くんの世界』『長いお別れ』、ドラマ『美食探偵 明智五郎』『パレートの誤算』『セミオトコ』『螢草』など。新国立劇場では、『やけたトタン屋根の上の猫』『CLEANSKINS/きれいな肌』（第7回朝日舞台芸術賞寺山修司賞、第15回読売演劇大賞優秀男優賞受賞）『浮標』『かもめ』に出演。

### あめくみちこ (AMEKU Michiko)

1983年、劇団東京ヴォードヴィルショーに入団。劇団公演のみならず、外部出演も多数。また、ドラマ、映画などにも数多く出演している。第20回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。ドラマ『警視庁・捜査一課長』『土曜ワイド劇場 再捜査刑事片岡悠介シリーズ』『カーネーション』『臨場』などに出演。主な舞台に『アパッチ砦の攻防』『田母神家の一族』『パパのデモクラシー』『龍馬の妻とその夫と愛人』『謎解きはディナーのあとで』など。新国立劇場では『焼肉ドラゴン』（2016）『三文オペラ』『負傷者16人-SIXTEEN WOUNDED』に出演。

### 松尾 諭 (MATSUO Satoru)

2000年、映画『忘れられぬ人々』で俳優デビュー。以降、映画、ドラマなどで、画面の隅々で得も言われぬ魅力を発し続ける個性派実力俳優である。舞台『アルトゥロ・ウイの興隆』『バリーターク』、映画『シン・ゴジラ』『進撃の巨人』、ドラマ『エール』『螢草』『ノーサイド・ゲーム』『やじ×きた』『JOKER×FACE』『わろてんか』『ひよっこ』などに出演。新国立劇場では『つく、きえる』に出演。

### 森下能幸 (MORISHITA Yoshiyuki)

劇団ランプティ・パンプティに所属後、1991年『あの夏、いちばん静かな海』で映画デビュー。その後も『Kid's Return キッズ・リターン』『ソナチネ』など北野武監督作品に出演。以後、『酔うと化け物になる父が辛い』『閉鎖病棟 それぞれの朝』『ゴーストマスター』『オケ老人！』『キツツキと雨』『図鑑に載ってない虫』『69 sixty nine』『鮫肌男と桃尻女』などの映画に出演、個性派俳優としてドラマ、舞台、CMと幅広く活躍。新国立劇場では『1984』『アジア温泉』『パーマ屋スマイル』に出演。

## 花王おさむ (KAO Osamu)

1973年、劇団東京ヴォードヴィルショー結成に参加。20年間中心メンバーとして活躍。94年に退団後も数多くの舞台を中心に、映画、ドラマなどで独特の個性を生かし活動。映画では『恋愛戯曲』『僕と妻の1778の物語』『ストロベリーナイト』、ドラマ『S-最後の景観』『流星ワゴン』『ゴーストライター』などに出演。主な舞台として、『かもめ』『かたりの椅子』『ジギル&ハイド』『十三人の刺客』『耳なし芳一』『父よ!』『母をたずねて膝栗毛』『金閣寺』『炎立つ』『オーシャンズ11』など。新国立劇場では『桜の園』『氷屋来たる』『雨』『イロアセル』『東海道四谷怪談』『月・こうこう、風・そうそう』に出演。

## 林田航平 (HAYASHIDA Kohei)

新国立劇場演劇研究所第5期修了。主な舞台として、『アドルフに告ぐ』『ヒストリーボーイズ』『みんな豚になる～あるいは「蠅の王」～』。新国立劇場では、こつこつプロジェクトーディベロップメントーリーディング『リチャード三世』『君が人生の時』『マニラ瑞記』『ピグマリオン』『長い墓標の列』『サロメ』に出演

## 公演概要

【タイトル】 願いがかなうぐつぐつカクテル

【スタッフ】 原作・上演台本：ミハエル・エンデ 翻訳：高橋文子 演出：小山ゆうな

美術：乗峯雅寛 照明：佐藤 啓 音響：福澤裕之 衣裳：大島広子  
ヘアメイク：高村マドカ 演出助手：城田美樹 舞台監督：澁谷壽久

芸術監督 小川絵梨子

主催 新国立劇場

【キャスト】 北村有起哉 松尾 諭 森下能幸 林田航平 あめくみちこ 花王おさむ

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2020年7月9日(木)～26日(日)

【料金(税込)】 A席5,500円(こども2,750円) B席3,300円(こども1,650円)

○こども(4歳～小学生)は上記こども料金(50%OFF)でチケットをお求めいただけます。中学生の方は大人料金となりますが、ジュニア割引[20%割引]をご利用いただけます。また、ご入場時に年齢を確認させていただく場合がございます。

【一般発売】 2020年6月27日(土) 10:00～

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

☆本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策をとって上演いたします。

詳細: [https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23\\_017512.html](https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017512.html)

☆劇場でも おうちでも 夏の新国立劇場 演劇

2020年夏、新国立劇場の演劇は劇場での公演、そしておうちで楽しめるイベントなど、こどもも大人も楽しめるコンテンツをお届けいたします!

詳細: [https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13\\_017422.html](https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13_017422.html)

\* **Z席1,650円** Z席(各日4席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。※先着販売後、残席がある場合は、公演当日の開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。\* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。\* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。